



本来、福祉は「人間としての幸せを求める日常生活での努力」であり、障害や年齢、性差に関わらず、人が人として自分の人生を精一杯生きるプロセスをサポートするものでなければなりません。福祉はどうあるべきか、また、福祉の積極的な努力の果実として、文化を育み、さらに深い味わいのある文化を創り出していくことができるといふ趣旨のもと、1989年に設立されたのが「日本福祉文化学会」です。

近年、社会福祉分野の思想・政策・サービス提供の仕組みは大きく様変わりしました。中でも、平等、人権擁護、サービスの選択・決定、暮らしの場である地域社会の再生など、さまざまな形で国民一人ひとりの生き方が問われる時代に入っています。

急速に少子・高齢社会を迎えた今日の日本では、地域社会が持つ機能や家族機能の低下・崩壊が全国的に広がり、福祉サービスに対するニーズも年々多様化しています。福祉は「誰もが、いつでも、どこでも、必要なサービスを受けられる」システムが求められ、政策的に、実践的にその具体化が進められる必要があります。

現在、日本各地で、さらに福祉現場でさまざまな文化活動が盛んに取り組まれ、人々の生活に彩りを添えています。文化活動の成果を福祉分野に取り入れることで、周りの地域社会も含めて豊かにしている取り組みもあちこちに根付き始めています。

本学会も、これまでの歴史の中で、「福祉の文化化」「文化の福祉化」「地域の福祉化」を求めつつ、「個人が大切にされる時代への模索」「もっと実践的なヒューマンなことに触れる経験の共有」「文化的な生活の質の保障」「人権文化」へとその研究および実践活動を深めてまいりました。

そのような一つひとつの実践に学びながら、理論化し、さらに現場実践に返していく、学会の活動に、思いを同じくする人々と「文化としての福祉」を、文化を縦糸に、福祉を緯糸に織り紡ぎ、大きなネットワークを創っていきませんか。

活動の内容

●大会(年1回開催)

1年間の活動の総まとめです。記念講演、研究発表、分科会ごとの討論のほか、さまざまな文化活動の発表の場も設けます。会員相互の活動・研究の交流の場でもあり、その地域ならではの文化を味わいながら熱い議論を交わします。

●現場セミナー

「現場から学ぶ」姿勢を大切にしてきた本学会の重要イベントのひとつです。ユニークな福祉文化活動を行っている施設や地域を訪れ、現場の空気に触れながら福祉文化について議論をします。泊まり込みで夜を徹して交流することもあります。

●国際交流

諸外国の福祉文化実践を学ぶとともに、日本の福祉文化の現状を紹介する国際交流の場です。

●各種委員会活動

同じ関心を持った会員同士が集まり、福祉文化について自由に語り合います。介護における文化、福祉レクリエーション、福祉文化とは何か、高齢者のアウトドア活動、福祉文化教育など、テーマは多彩です。

●ブロック活動

福祉文化をキーワードとして、各ブロックごとにさまざまな活動を行います。地方で大会を開催する場合は、運営事務局機能も果たしています。

●シンポジウムの開催

タイムリーな福祉文化の話題についてシンポジウムを行っています。各種団体がシンポジウムなどのイベントを開催する場合、その活動を後援することもあります。

●研究誌、学会通信、書籍の発行

- ・研究誌『福祉文化研究』（年1回発行）
福祉文化についての学術研究や実践活動から生まれた方法論、実践活動紹介等を掲載する研究誌です。
- ・『福祉文化実践報告集』（年1回発行）
福祉文化の実践に関わる報告・小論・記録・作品紹介・実践紹介等を掲載する実践報告集です
- ・通信『福祉文化通信』（年2回）
「福祉文化人に聞く(インタビュー)」、「地方発福祉文化」、「事業報告」、「読書案内」、「インフォメーション(イベント情報)」など日本や諸外国の福祉文化についてのホットな情報を掲載しています。

学会の出版物

- 新・福祉文化シリーズ(全5巻、明石書店、2010～2011年)
日本福祉文化学会編集委員会編『福祉文化とは何か』
日本福祉文化学会編集委員会編
『アクティビティ実践とQOLの向上』
日本福祉文化学会編集委員会編『新しい地域づくりと福祉文化』
日本福祉文化学会編集委員会編『災害と福祉文化』
日本福祉文化学会編集委員会編『福祉文化の源流と前進』
- 実践・福祉文化シリーズ(全5巻、明石書店、2001～2002年)
一番ヶ瀬康子・河島修編『高齢者と福祉文化』
一番ヶ瀬康子・小沼肇編『子どもと福祉文化』
一番ヶ瀬康子・河東田博編『障害者と福祉文化』
一番ヶ瀬康子・小林博・馬場清編『地域社会と福祉文化』
一番ヶ瀬康子・園田碩哉編『余暇と遊びの福祉文化』
- 福祉文化ライブラリー(全15巻、中央法規、1991～1995年)
一番ヶ瀬康子編『福祉を拓き、文化をつくる』
姥山寛代編『きょうから友だち、ゆきわりそう』
小澤洋子著『装いは生きるよろこび』
—ハンディキャップをもつ人の衣服とオシャレ—
草薙威一郎・馬場清編『障害者アクセスブッカー海外旅行編—』
馬場哲雄編『いまこそ「みんなのスポーツ」を』
多田千尋著『おもちゃのフィールドノート』
正岡慧子著『お年寄りのための食事読本—薬膳のすすめ—』
戸原一男著『障害者アートバンクの可能性』
多田信作著『私の仕事はナンバーワン』
—地域に根ざした福祉文化の創造者たち—
エム・ナマエ著『夢宙船コベル号』
千葉和夫著『高齢者レクリエーションのすすめ』
園田碩哉著『デザインする時間』
加藤美枝他編著『煌きのサンセット』
—文学に「老い」を読む—
芸術教育研究所編『映画の中に福祉がみえる』
「福祉と人権」を考える研究グループ編
『自己実現のための福祉と人権』など



入会申込書

会員 1. 個人会員 2. 学生会員 3. 団体会員 4. 賛助会員
氏名(フリガナ) (男・女)
住所(自宅) 〒
電話
FAX
E-mail
勤務先・学校名
所属(担当役職)
住所(勤務先・学校)
資料の送付先 自宅 ・ 勤務先 *どちらかに○をお付けください。
電話
FAX
E-mail
他の所属団体
専門分野・関心領域 *該当するものに○をつけてください。(複数選択可) (1)福祉文化 (2)理論 (3)歴史 (4)倫理・哲学 (5)方法、技術 (6)制度・政策 (7)家族・家庭 (8)児童 (9)障がい者 (10)高齢者 (11)ジェンダー (12)地域 (13)医療・保健 (14)国際 (15)衣食住 (16)福祉教育 (17)福祉機器 (18)芸術 (19)スポーツ (20)レクリエーション (21)その他(具体的に:)
職業・活動分野 *該当するものに○をつけてください。(複数選択可) (1)心理、相談 (2)ケアワーク (3)医療、保健 (4)芸術、スポーツ (5)行政、機関 (6)NPO、NGO (7)マスコミ、メディア (8)経営、管理 (9)教育、研究 (10)ボランティア (11)宗教 (12)その他()
学会への希望・関心

日本福祉文化学会 入会方法

学会運営は、会員各位のご理解、ご協力が基盤となります。一人でも多くの方にご入会いただき、より一層学会の発展を目指していきたく思っております。

学会設立の趣旨にご賛同いただける方であればどなたでも入会可能ですので、左記入会申込書を事務局までお送りください。

(インターネットでも入会受付をしております。)

年会費

個人会員 10,000円
学生会員 5,000円
団体会員 一口20,000円以上
賛助会員 一口50,000円以上

郵便振替口座

●口座番号 00580-4-48506
●加入者名 日本福祉文化学会
ニホンフクシブunkaガクカイ

<会員>

- ・個人会員・学生会員
本学会の趣旨に賛同し、さらに研究・実践活動に積極的に参加する意思を持ち、所定の会費を納入した者。
- ・団体会員
本学会の趣旨に賛同した団体にして、所定の会費を納入し、評議員会において承認した者
- ・賛助会員
本学会の趣旨に賛同し、本学会に経済的、その他の援助を与えるもので、評議員会で推薦した者

<特典>

学会の諸活動に参加し、学会通信・研究紀要などの配布を受けられる。

※お知り合いの方に学会をご紹介いただける方は、パンフレットの必要部数と発送先を事務局までお知らせください。

日本福祉文化学会事務局

〒165-0026 東京都中野区新井2-12-10 芸術教育研究所内
TEL&FAX : 03-5942-8510
E-mail : fukushibunka@lagoon.ocn.ne.jp
ホームページ : <http://www.fukushibunka.net>

文化としての 福祉の創造

日本福祉文化学会

Japan Human Welfare and
Culture Research
Association

<http://www.fukushibunka.net>